

医療福祉技術分科会

★第4回福祉技術シンポジウム（2002年10月）はおかげさまで無事終了致しました

[開催報告（4、5ページ）](#) を御覧下さい。

産業技術連携推進会議・産学官地域技術交流会「第4回福祉技術シンポジウム」(終了)

このシンポジウムは、福祉技術に関係する都道府県市町村における試験研究機関、産総研、大学、企業、団体、行政からの参加者及び福祉にご関心のある方々による研究交流、情報交換、人的ネットワークの構築の場として開催されるものです。

本シンポジウムでは、研究成果の発表に加えて、以下のような開発事例の発表も予定しております。

- 開発の失敗例、またはそれをどのように克服したか、克服できなかったか
- 開発後に残された問題
- 良いものを作ったのに、なぜ使ってもらえないか疑問を抱えている例
- 福祉用具を使いやすくするために凝らした工夫。
- 中間ユーザ（福祉現場）や最終ユーザから見た福祉用具開発のアイデア・要望
- ウェルフェアテクノハウスを利用した研究開発の実例 等

皆様のご来場をお待ち致しております。

※御参考

- [第3回福祉技術シンポジウム](#) (2001.10.25、約150名参加)
- [第2回福祉技術シンポジウム](#) (2000.9.13、約240名参加)
- [第1回福祉技術シンポジウム](#) (1999.10.28～29、約180名参加)

開催要領

- 開催日時：平成14年10月26日（土） 9:30～17:10
- 開催場所：第2電波ビル 大ホール9F 東京都千代田区外神田2-14-10
 - 地下鉄 銀座線 末広町下車 3分、千代田線 湯島下車 5分、JR お茶の水、秋葉原下車 8分
- 内 容
 - 特別講演、一般発表、総会、ポスター及び試作品展示
 - 交 流 会：小ホール9F
- 参加費：シンポジウム 無 料 交流会参加費：1,000円
- 参加申込：参加者氏名、所属、住所、連絡先、交流会参加の有無を下記にご連絡下さい。（当日受付可）
 - （独）産業技術総合研究所 産学官連携部門地域連携室 福祉技術部会事務局
 - 〒305-8568 つくば市梅園1-1-1 中央第2
 - Tel： Fax：
- 交流会申込：準備の都合上10月18日（金）までに御願います。

9:30～ 9:40 開会挨拶

9:40～10:05 話題提供 「人間と機器の共存を目的とする安全設計の考え方と手順」

産業安全研究所 機械システム安全研究グループ 池田 博康 氏

10:05～12:00 一般発表

12:00～12:20 福祉技術部会総会

12:40～13:50 ポスター&試作品発表

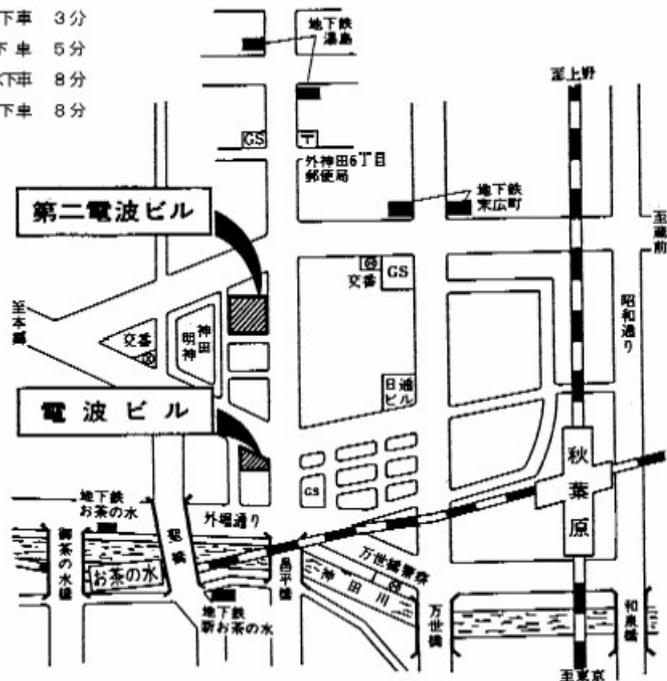
14:00～14:50 特別講演「障害者用ヨットの開発」

特定非営利活動法人ヨットエイドジャパン 代表 大塚 勝 氏

14:50～17:10 一般発表

17:20～19:00 交 流 会 小ホール9F

地下鉄 銀 座 線 末広町下車 3分
 // 千代田線 湯島下車 5分
 // 千代田線 お茶の水下車 8分
 JR お茶の水 秋葉原下車 8分



主催/産業技術連携推進会議 福祉技術部会 財団法人 日本産業技術振興協会

発表プログラム

開会挨拶 9:30~ 9:40

- 産業技術連携推進会議福祉技術部会長 齋田 真也

話題提供 9:40~10:05

- 「人間と機器の共存を目的とする安全設計の考え方と手順」
 - 産業安全研究所 機械システム安全研究グループ 池田 博康 氏

設計者・製造者側の安全確保プロセスを中心として、その枠組みの中でのユーザ側の立場について述べる。

一般発表 I 10:05~11:00

自転車駆動機構の開発とその身障者用アームサイクルへの適用	○岩月 徹 産業技術総合研究所 ほか
多機能電動車いすの開発	○取田秀樹 関東自動車工業 (株) ほか
既存住宅用後付けホームエレベーターの開発	○安部清司 三和シャッター工業 (株)

一般発表 II 11:05~12:00

片麻痺者の為の背屈補助機能付短下肢装具の開発	○安井 匡 川村義肢 (株) ほか
足部・足趾機能が立位姿勢に及ぼす影響	○塩澤伸一郎 社会医学技術学院
粒体噴流化方式による自動介護入浴装置の開発について	○光森琢磨 高知県工業技術センター ほか

総会 12:00~12:20 (どなたでも参加可能)

福祉関連政策報告	経済産業省商務情報政策局サービス産業課医療・福祉機器産業室
部会活動報告	福祉技術部会事務局長 池田喜一

特別講演 14:00～14:50

- 「障害者用ヨットの開発」
 - 特定非営利活動法人ヨットエイドジャパン 代表 大塚 勝 氏

自然はだれにでも平等のはず。セーリングは障害の影響が少ない、経験、知識が重要なスポーツ。上質な海のバリアフリーを目指し、運動能力の測定、意見聴取、ヨット上でモデル確認等々、障害者用ヨットの開発建造を行った。今年、このヨットで片道10時間の回航を実施、阿波踊りヨットレースに参加した。

一般発表 III 14:50～15:45

東京都健康福祉研究会－開発品を売るヒントと努力－	○岡野 宏 東京都立産業技術研究所 ほか
高齢者・障害者の日常生活動作(ADL)対応衣服	○明石淳子 大阪体育大学短期大学部 ほか
ユニバーサルフィッティングルームの開発	○高橋哲郎 石川県工業試験場 ほか

一般発表 IV 15:55～17:10

独居高齢者向け生活状況モニタリングシステムの開発	○松本佳昭 山口県産業技術センター ほか
高齢者IT利用特性に関するデータベースの構築	○石本明生 (社)人間生活工学研究センター ほか
トイレ便座を利用する心電図測定閲覧システム	○大賀 誠 広島県立東部工業技術センター ほか
超音波尿意センサの実用化への課題	○児玉廣之 産業技術総合研究所

ポスター及び試作品発表12:40～13:50 (コアタイム 13:00～13:30)

赤外線リモコン付デジカメの重度肢体不自由者向け改造	○河村 洋 東京都立産業技術研究所
移乗用車椅子の開発	○平 栄蔵 宮崎県工業技術センター ほか
自動介護入浴装置	○光森琢磨 高知県工業技術センター ほか
入浴補助すりすり開発の技術支援	○後藤泰徳 兵庫県立工業技術センター ほか
障害者用アームサイクル	○岩月 徹 産業技術総合研究所 ほか
多機能電動車いす	○取田秀樹 関東自動車工業(株) ほか
片麻痺者の為の背屈補助機能付短下肢装具	○安井 匡 川村義肢(株) ほか
自助具	○自助具の部屋事務局
バリアフリーパンフレットが出来るまで	○秋元昭臣 京成ホテル(株)

「第4回福祉技術シンポジウム」開催速報

10月26日（土）、千代田区外神田の第2電波ビルにて、「第4回福祉技術シンポジウム」は96名の御参加を得て盛況のうちに開催されました。

- [講演会案内と講演要旨](#)

部会長御挨拶（開会式にて）



大塚先生の特別講演



大塚勝先生（特定非営利活動法人ヨットエイドジャパン）による「障害者用ヨットの開発」と題された講演は、セーリングスポーツのバリアフリー化を目指す精力的な開発過程が、大変興味深いものでした。

シンポジウム



講演では、開発した機器のデモンストレーションなども行われ、聴衆の注目を集めました。

会場併設の機器展示



シンポの合間に機器展示も行われ、あちこちで質疑応答の人だかりができていました。

展示内容

- 赤外線リモコン付デジカメの重度肢体不自由者向け改造
- 移乗用車椅子の開発
- 自動介護入浴装置
- 入浴補助手すり開発の技術支援
- 障害者用アームサイクル
- 多機能電動車いす
- 片麻痺者の為の背屈補助機能付短下肢装具
- 各種自助具
- バリアフリーパンフレットが出来るまで

交流会

